

高校日本史プリント（過去問類似）

日本史B（旧課程の過去問） No.4

名前

得点

/10

問1 田中義一内閣の退陣後、1929年に組織された内閣の首相で、蔵相に井上準之助を起用して金解禁を断行し、外相に幣原喜重郎を起用して協調外交を復活させたものの、軍縮条約の調印をめぐる統帥権干犯問題が惹起され、東京駅で狙撃されて退陣を余儀なくされた人物は誰か。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 田中義一 2. 浜口雄幸 3. 近衛文麿 4. 岡田啓介

問2 第二次世界大戦直後の1945年12月、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）が信教の自由の確立と軍国主義の排除を目的に発令し、国家と神社神道との結びつきを断ち切るために政府による援助や監督を禁止した指令を何というか。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 神道指令 2. 人権指令 3. 財閥解体 4. 公職追放

問3 第一次世界大戦期、ヨーロッパ諸国がアジア市場から後退したことを背景に、日本の軽工業製品はアジア市場へ急速に進出した。この時期、日本の紡績企業が安価な労働力や原料を求めて中国現地に工場を建設し、生産を行う動きが活発化したが、このような中国進出を遂げた日本の紡績資本やその現地工場を総称して何と呼ぶか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 兌換券 2. 在華紡 3. 金解禁 4. 配給制

問4 大正デモクラシー期の1918年に公布され、それまで官立の帝国大学に限られていた大学の設置主体を公立や私立にも拡張し、早稲田や慶應義塾などの私立専門学校が正式な大学へと昇格する契機となった法令は何か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 学校令 2. 学位令 3. 大学令 4. 教育令

問5 江戸時代の酒造業において、摂津国の伊丹などで生産され、江戸へ送られて「下り酒」として珍重された、麴米と掛け米の双方に精白米を使用する高度な技術によって造られた澄み切った高級な清酒を何と呼ぶか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 泡盛 2. 諸白 3. 焼酎 4. 清酒

問6 明治時代、フェノロサとともに伝統美術の復興に努めた岡倉天心が、横山大観や下村観山らとともに創設し、日本画の近代化と革新運動を推進した美術研究団体は何か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 太平洋画会 2. 明治美術会 3. 演劇改良会 4. 日本美術院

問7 19世紀初頭の関東地方では、無宿人や博徒の横行による治安悪化が深刻化していた。これに対処するため、江戸幕府は勘定奉行の配下に新たな役職を設け、国境を越えた広域的な取締りを行わせた。のちにこの役職の活動を補完するため、領主の支配の遠いを超えて近隣の村々を結合させた「寄場組合」が結成されることとなったが、このとき幕府が設置した治安維持のための役職は何か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 人足寄場差図役 2. 火付盗賊改役 3. 関東取締出役 4. 人足寄場取締役

問8 大正デモクラシー期、都市の中産階級を中心に、衣食住の無駄を省き、合理的で衛生的なライフスタイルを実践しようとする啓発活動が活発化した。洋食の普及や文化住宅の推奨など、近代的なライフスタイルへの転換を促したこの社会運動を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 勤儉貯蓄運動 2. 消費組合運動 3. 地方改良運動 4. 生活改善運動

問9 立憲政友会を組織基盤とする内閣が、中国への強硬外交を展開する中で発生した事件である。関東軍の参謀らが奉天郊外で中国の軍閥を爆殺したものの、国内では真相が隠蔽されてこう呼ばれ、最終的にこの事件の事後処理をめぐる昭和天皇の不興が原因で内閣総辞職に至った。この事件を当時何と呼んだか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 第二次山東出兵 2. 満州某重大事件 3. 第二次上海事変 4. 第一次上海事変

問10 大正期から昭和初期にかけて、植民地支配の放棄を主張する「小日本主義」を唱え、自由主義的な言論活動を展開した『東洋経済新報』の記者・経済評論家で、第二次世界大戦後には首相を務めた人物は誰か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 福田赳夫 2. 石橋湛山 3. 池田勇人 4. 佐藤栄作

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 2 浜口雄幸	田中義一内閣が張作霖爆殺事件の処理をめぐって昭和天皇の不信を買い退陣した後、立憲民政党総裁の浜口雄幸が首相に就任した。浜口内閣は金解禁の断行やロンドン海軍軍縮条約の調印など内政・外交で大きな成果を上げたが、軍縮条約調印に反対する右翼の青年に東京駅で狙撃され、重傷を負ってのちに退陣・死去した。
問2	答え 1 神道指令	第二次世界大戦後の1945年12月、GHQは軍国主義や超国家主義の基盤となった国家神道を廃止するため、政府と神道の分離を命じる指令を出した。これにより、神社に対する公的な援助や監督、学校教育における神道教育などが禁止され、信教の自由が保障されることとなった。明治政府が推進した祭政一致政策や大教宣布の詔による国民教化とは対照的に、国家と宗教の厳格な分離が図られた。
問3	答え 2 在華紡	第一次世界大戦中、ヨーロッパ諸国がアジア市場から後退したため、日本の綿製品の輸出が急増した。これに伴い、日本の紡績資本は中国市場での競争力を維持・強化するため、現地に工場を建設して生産を行うようになった。これを在華紡と呼び、戦後の関税自主権の部分的回復や中国での民族運動（五・三〇運動など）の標的となるなど、大正から昭和期にかけての東アジア情勢に大きな影響を与えた。
問4	答え 3 大学令	1918年に制定されたこの法令は、それまでの帝国大学中心の高等教育制度を改め、公立・私立大学や単科大学の設置を公認した。これにより、大正期から昭和初期にかけて高等教育機関が急増し、学術の発展と大衆化が進んだ。
問5	答え 2 諸白	江戸時代中期以降、摂津国の伊丹や池田、のちには灘などで、麴米と掛け米の両方に精白米を用いる製法による清酒造りが発達した。これにより、それまでの濁り酒に代わって、澄み切った高品質な清酒が大量に生産され、江戸へ送られて人気を博した。
問6	答え 4 日本美術院	岡倉天心は東京美術学校を辞職した後、1898年にこの団体を結成した。西洋画の技法を取り入れつつ、伝統的な日本画に新たな息吹を吹き込む運動を展開し、横山大観や下村観山、菱田春草らが活躍した。
問7	答え 3 関東取締出役	江戸時代後期の関東地方では、細分化された領地（私領・旗本領・幕領など）が複雑に入り組んでおり、無宿人や僧徒が領境を越えて逃亡するため、個別の領主による取締りが困難であった。そこで幕府は1805年、国境を越えて広域的な治安維持を行う関東取締出役を設置した。さらに1827年には、この活動を地域社会側から補完・支援させるため、領主の枠を超えて近隣の村々を連合させた寄場組合（改革組合村）を組織させた。
問8	答え 4 生活改善運動	大正期から昭和初期にかけて、都市化の進展を背景に、従来のに因習的な生活習慣を改めて合理的・衛生的な生活を目指す生活改善運動が展開された。この運動は、栄養面から洋食の導入を勧めたり、和洋折衷の文化住宅を推奨したりするなど、人々の衣食住に大きな影響を与えた。
問9	答え 2 満州某重大事件	1928年、国民政府の北伐に伴い北京から撤退する途中の軍閥・張作霖を、関東軍の高級参謀・河本大作らが列車ごと爆破して殺害した。田中義一首相は当初、昭和天皇に対して真相を究明し厳重に処罰すると報告したが、陸軍の強い反対にあつて方針を翻し、曖昧な処分を済ませようとした。この不誠実な対応が昭和天皇の激しい怒りを買ひ、内閣は総辞職に追い込まれた。この事件は当時、軍部への配慮から真相が伏せられ、このように称された。
問10	答え 2 石橋湛山	大正デモクラシー期に『東洋経済新報』の記者・主幹として活躍した石橋湛山は、台湾や朝鮮などの植民地を放棄し、平和的な産業立国を目指す「小日本主義」を提唱した。戦後は政界に入り、1956年に首相となったが、病気のため短期間で退陣した。